

佳作

## 挑戦の先に見えるもの

奈良県 奈良市立富雄南中学校二年 天雲 遥香

今年の二月のある日、私は何気なくテレビをつけました。すると、ちょうど平昌オリンピックのフィギュアスケート男子シングルのフリースケートイングが開催されていました。私はハラハラしながら見ていましたが、一日目と二日目の結果の合計により確定する最終順位では羽生選手は一位、宇野選手は二位でした。

羽生選手は昨年十一月に練習中に右足を負傷しており、約三ヶ月間公の場には出ていなかったそうです。痛み止めなしではジャンプすることはできないという過酷な状況の中、とても美しい演技で栄冠を勝ち取った羽生選手に心を動かされました。

私はこんな羽生選手の姿を見て、「やめる」とか「あきらめる」ということはしないようにしようと思えました。自分がどんな状況にあっても、挑戦す

ることで変わることがあると思っただけです。

今年の七月の中頃、私は同じ吹奏楽部の友達に、三人程で演奏してくれないかという依頼をうけたけど、一緒に出てみないか、というさそいが来ました。初めは少しためらいがありました。三人で演奏すると一人一人の音がとても目立つし、本番までの練習できる時間が一ヶ月もなかったからです。しかし、それでも私はその演奏会に出ることを決心しました。演奏会で演奏する楽器は、伴奏担当のピアノとリズムをとるドラム、そして私が演奏するメロディー担当のサクソです。

吹奏楽部で演奏するときは、たくさんの楽器の音が重なって、一つの音だけが目立つということにはほぼありません。しかし、ソロで演奏するとなると、少し音を間違えたりした時や音があらくなったり、すごく目立ってしまします。私はそれに気がついて、いつも先輩や他の部活の仲間たちにかくれていた自分がいたんだなあと思ひ、反省しました。

当日、本番の時間が近づくとだんだんと緊張が高まってきました。そんな時、一緒に練習してきた仲間が

「大丈夫、大丈夫。絶対いけるって。」

と、勇気が出る言葉をかけてくれたことがとても心強かったです。

いざ演奏を始めると、不安や緊張がスツと無くなって自分の思うままに吹くことができました。思いもよらぬアンコールまでいただき、本当に最高の演奏会になったと思います。

私はこの演奏会を通して学んだことがあります。それは、挑戦は発見につながる、ということです。私は今回の演奏会で自分自身への課題を発見しました。友だちと絆を深める幸せを感じました。人を笑顔にできたときの喜びを知りました。

挑戦することが困難なほど、後から得られる発見や幸福感は大きいのではないのでしょうか。たとえうまくいかなかったとしても。

私はこれからの人生、たくさん挑戦して発見し、自分自身を高めて歩んで行きたいです。